

に伴い、環境保全に対してもより一層の配慮が必要となるであろう。除草剤の開発及び普及においても、こうした時代の要望にかなった製品や技術開発が重要であることは述べるまでもないが、除草剤抵抗性作物は、こうした要望に答える手段の一つとして今後も利用が進められるであろう。

引用文献

- (1) Clive James, ISAAA Briefs. No.12(1999)
- (2) Jorge Fernandez-Carnejo et al., Agricultural Economic Report No. 786(2000)
- (3) USDA, Agricultural Chemical Usage: Field Crops Summary 1990-1998 (separate volumes), National Agricultural Statistics Service. (2000)

質問コーナー

●セイタカアワダチソウは花粉公害雑草か？

(問) 秋になると川原や土手、あき地に大きな黄色の花を一面に咲かせるセイタカアワダチソウ、花がいっせいに咲くので花粉症に悩まされる私にとっては、花粉症の原因になるのではないかと心配ですが、花粉症との関係について教えてください。(茨城県・鈴木)

(答) 結論から先に申しますと、セイタカアワダチソウの花は虫媒花ですから、花粉は風で飛びません。従って、花粉症とは関係がありません。

セイタカアワダチソウは、今から55年前太平洋戦争後にアメリカから入ってきた外来(帰化)雑草で、はじめは九州北部で広がりましたが、現在では全国各地の川原やあき地、土手などに大群落をつくっています。この草がはびくると、他の草を寄せつけず、セイタカアワダチソウだけが群生し、秋遅くに茎先に大きな花穂をだし、各枝に黄色の小さな花を多数つけて群生地では一面黄色の花で埋まり、実に見事な景観をつくります。一面黄色の花が風になびきますと、花粉が飛散するのではないかと心配され

るのは無理からぬことです。

花粉症は植物の花粉が風で飛び、空気中に花粉がたどようことによって起こります。花粉を飛ばす植物の花は風媒花と呼ばれ、雄花の花粉が風によって運ばれ、雌花に達して交配する植物です。例えば春の杉、ネズミギヤカモガヤなどのイネ科の雑草。夏のブタクサやクワモドキなどが代表的なもので、これらの風媒花の植物は雄花が多数つき、軽くて大量の花粉が風で飛ばされ、空気中にたどようために花粉症が起きる訳です。

セイタカアワダチソウは虫媒花です。こちらはハチやチョウなどの昆虫が花の蜜を吸い、花から花へと移る際に花粉を運んで交配してくれます。従って花粉が風に乗って飛ぶ必要はありません。一般的に虫媒花の花粉は重くて風では飛びませんから花粉症の原因にはなりません。

セイタカアワダチソウが各地に広まりだした頃、花が余りにも多く咲くので花粉公害雑草とさわがれた時代がありましたが、その後虫媒花ということが理解され、今では花粉公害雑草とはんだ濡衣だったとされています。 (㊦)